

地 理

I 一次産品に関する以下の文章を読んで、問いに答えなさい。

一次産品(未加工の農産物、鉱産物、燃料など)の中でも、コーヒー豆、カカオ豆、茶(紅茶、緑茶など)は生産国の多くが植民地であった時代から国際的に取引されてきたが、今日でも発展途上国の多くで生産されている。表I—1はこの三つの農産物(X、Y、Zと表示)の生産国と輸出国を、表I—2は輸入国をそれぞれ示したものである。

Xはアフリカのエチオピアが原産の植物から収穫されるが、南米のA国が長期間にわたって世界最大の生産国であり、世界の市場価格を左右する影響力を持っている。エチオピアでは広くXが飲まれ、その飲み方の作法も発達してひとつの文化となっているが、他のアフリカの実産国では生産量のほぼ全量輸出される。A国では、Xは国内でも消費されるが、約半分が輸出に回る。近年、アフリカの国々で生産が停滞し、代わってアジアの諸国で生産が増加してきた。中でも東南アジアのI国の生産と輸出の増加は目覚ましく、2012年の時点では輸出量がA国を抜いて世界一になっている。

Yはアジアが主な生産地であるが、K国でブランド化され、世界的に販売されているものも多い。K国はかつて南アジアのインド、スリランカ、パキスタンを含め、世界中に植民地を領有していた。O国もかつてK国の植民地でK国系のプランテーションや入植者がXやYの生産をしていた。中東のL国ではX、Yともに盛んに飲用され、都市部に多数の店があつて職場への出前もしている。

Zはアフリカが主な生産地であるが、K国の植民地であったE国や、K国の植民地であったガーナなどのアフリカ諸国で生産量が多い。近年はK国の植民地であったU国の生産が伸びている。

問 1 X, Y, Z はコーヒー豆, カカオ豆, 茶のいずれかである。どれがコーヒー豆で, どれが茶か, 解答用紙の 1 行目に, コーヒー豆 = Z, 茶 = X のように記しなさい。(コーヒー豆 = X, 茶 = X のように同じ記号を書いた場合は得点を与えない)

問 2 ア～カまでの国名を解答用紙の 2 行目～3 行目に, ア = 日本, イ = 中国のように記しなさい。キ～ケについて答える必要はない。

問 3 X と同じように, Y についても生産地における変化, 主産地の移動, 消費地における変化, 大消費地の移動などによって需給に変化が起きている。どのような変化が生じたのか, 表 I-1 と表 I-2 を参考にしながら, 説明しなさい。解答の中では, 農産物名や国名は, 問題文中の記号を使ってよい。(125 字以内)

問 4 上に説明したように, 東南アジアのイ国は農産物 X の輸出で世界一となり, 農産物 Y の生産と輸出も急速に伸ばしてきた。同じく東南アジアのウ国も, X と Z の世界で有数の生産国となり, さらに Y の生産もしている。アフリカの工国は Z の生産と輸出で世界一であり, また X の生産国, 輸出国でもある。アフリカの才国は X と Z の生産国, 輸出国である。このように, 東南アジアのイ国, ウ国, アフリカの工国, 才国は三つの農産物の重要な生産地である。しかしこれら三つの農産物の輸出(による外貨収入)が, イ国, ウ国の経済と工国, 才国の経済に与える影響は異なっている。どのように異なり, それはどのような理由によるのか説明しなさい。その際, 表 I-3 を参考にしなさい。(125 字以内)

問 5 一次産品の生産国, 生産者農民にとっては, 一次産品の問題は表 I-1 と表 I-2 に示したような, いくつかの年における「生産量」だけにかかわるものではない。近年フェアトレードの運動などで議論されているのは, 一次産品のどのような問題か, 説明しなさい。(75 字以内)

表 I-1 三つの農産物の国別生産，輸出動向

(1) 農産物 X の主要国別生産量と輸出品

国・地域	生産量(千トン)			輸出品(千トン)		
	1990年	2000年	2012年	1990年	2000年	2012年
中南米						
【ア】	1465	1904	3038	853	967	1504
コロンビア	845	637	462	811	508	396
アジア						
【イ】	92	803	1565	90	734	1732
【ウ】	413	555	691	422	338	447
インド	118	292	314	83	162	217
アフリカ						
エチオピア	204	230	276	64	119	204
【エ】	285	380	121	232	308	82
カメルーン	101	86	38	157	89	42
【オ】	104	101	46	112	87	48

(2) 農産物 Y の主要国別生産量と輸出品

国・地域	生産量(千トン)			輸出品(千トン)		
	1990年	2000年	2012年	1990年	2000年	2012年
アジア						
中国	562	704	1805	211	238	319
インド	688	826	1135	198	201	225
スリランカ	233	306	330	216	287	318
【カ】	123	139	225	28	6	3
【イ】	32	70	217	16	56	147
イラン	37	50	158	0	21	11
【ウ】	156	163	143	111	106	70
アフリカ						
【オ】	197	236	369	166	217	234

(3) 農産物 Z の主要国別生産量と輸出品

国・地域	生産量(千トン)			輸出品(千トン)		
	1990年	2000年	2012年	1990年	2000年	2012年
アフリカ						
【エ】	808	1401	1486	676	1113	1012
ガーナ	293	437	879	249	360	586
ナイジェリア	244	338	383	148	139	200
カメルーン	115	123	269	104	77	174
アジア						
【ウ】	142	421	741	104	334	164
中南米						
【ア】	256	197	253	118	1.9	0.5

出所：FAO, FAOSTAT

表 I-2 三つの農産物の主要輸入国別輸入量の推移

(1) 農産物 X の主な輸入国 (千トン)

国	1990年	2000年	2012年
アメリカ	1174	1298	1371
ドイツ	829	809	1141
イタリア	307	357	497
日本	291	382	380
ベルギー	—	146	293
【キ】	313	304	253
【ク】	121	119	138
ロシア	—	17	111
【カ】	7	9	21

(2) 農産物 Y の主な輸入国 (千トン)

国	1990年	2000年	2012年
ロシア	—	158	180
【ク】	178	156	145
アメリカ	77	88	126
パキスタン	108	111	122
エジプト	70	72	109
ドイツ	24	35	57
日本	33	58	38
【カ】	0	5	5

(3) 農産物 Z の主な輸入国 (千トン)

国	1990年	2000年	2012年
【ケ】	314	495	682
アメリカ	337	471	410
ドイツ	297	251	369
マレーシア	0	101	339
ベルギー	—	105	198
日本	48	49	51

出所：FAO, FAOSTAT

表 I-3 各国の貿易に関する情報

国名	GDP PPP(1) (ドル) (2013年)	輸出額 (億ドル) (2013年)	輸出額の 世界順位	1人あたり 貿易額 (ドル)	貿易依存度 (2)(%) 2011-13年	輸出内訳	主な輸出品
【ア】	3兆0122億	2425.8	22位	2980	25.5	農産物37.4%, 工業製品35%	鉄鉱石, 原油, 食肉, 砂糖
【イ】	4748億	1320.3	34位	2757	158.7	工業製品70.4%, 農産物21.6%	衣類, 原油, 電気機械
【ウ】	2兆3884億	1834.4	27位	1699	48.6	燃料・鉱産物38.3%, 工業製品37%	石炭, パーム油, 天然ガス, 電気機械
【エ】	611.9億	132.5	82位	1170	95.0	農産物48.5%, 燃料鉱産物27.9%	農産物Z, 原油・石油製品など
【オ】	1004.5億	58.6	105位	625	68.2	農産物53.9%, 工業製品37.3%	農産物Y, 野菜, 果実, 切り花
【カ】	1兆4218.8億	1517.9	32位	6151	57.3	工業製品76.1%, 農産物11.5%	自動車, 衣類, 鉄鋼, 電気機械

注 (1) 購買力平価。物価水準の違いなどを調整した値

(2) 貿易額の対GDP比

輸出額は商品貿易の輸出額(サービス貿易は含まない)

出所: WTO, *Trade Profiles 2014*

II EU(欧州連合)に関する以下の文章を読んで、問いに答えなさい。

EUの基本理念のひとつは、域内における人の自由な移動、資本や物の自由な流通の実現にあった。そのため、EUは、このことを実現するためのさまざまな制度⁽¹⁾を段階的に導入してきた。

1993年にEUが発足して以降、その加盟国は順次増加してきた。EU発足当時12であった加盟国は、1995年に3か国、2004年に10か国、2007年に2か国、2013年⁽²⁾に1か国を加え、2015年時点で計28か国となった。加盟国が拡大した結果、域⁽³⁾内には多様な特徴をもつ国家が共存することとなった。

加盟国の多様化と世界情勢の変化は、人の自由な移動、資本や物の自由な流通というEUの理念の実現に対してさまざまな影響をもたらしてきた。とりわけ、人⁽⁴⁾の移動をめぐる問題は、EUにとって解決を迫られる大きな課題となっている。

問1 下線部(1)に関連して、EUが1993年の発足以降に設けた制度・条約・協定をどれか一つ挙げ、それがとくに何の実現をめざすものであったかを説明しなさい。(50字以内)

問2 表II—1は、下線部(2)に関連し、2004年以降のEU加盟国(キプロス、マルタを除く11か国)について、その経済社会状況を表す指標ごとの順位を示している。指標A～Cと国名サ～セを答えなさい。このうち指標A～Cについては、下の枠内から選び下線を引いた部分で答えること。解答用紙の3行目～5行目に、A = 指標名、B = 指標名・・・、サ = 国名、シ = 国名・・・のように、続けて記入すること。

A～Cに入る指標

製造業従業者比率(2013年、単位：％)

「貧困」状態にある人口比率(自国民)(2013年、単位：％)

65歳以上人口比率(2014年、単位：％)

問 3 下線部(3)に関連して、2004年以降の加盟国拡大は、EU域内にどのような変化をもたらしたか。表Ⅱ－1を参照し、新規加盟国間の差異にも言及しながら、その特徴を説明しなさい。(125字以内)

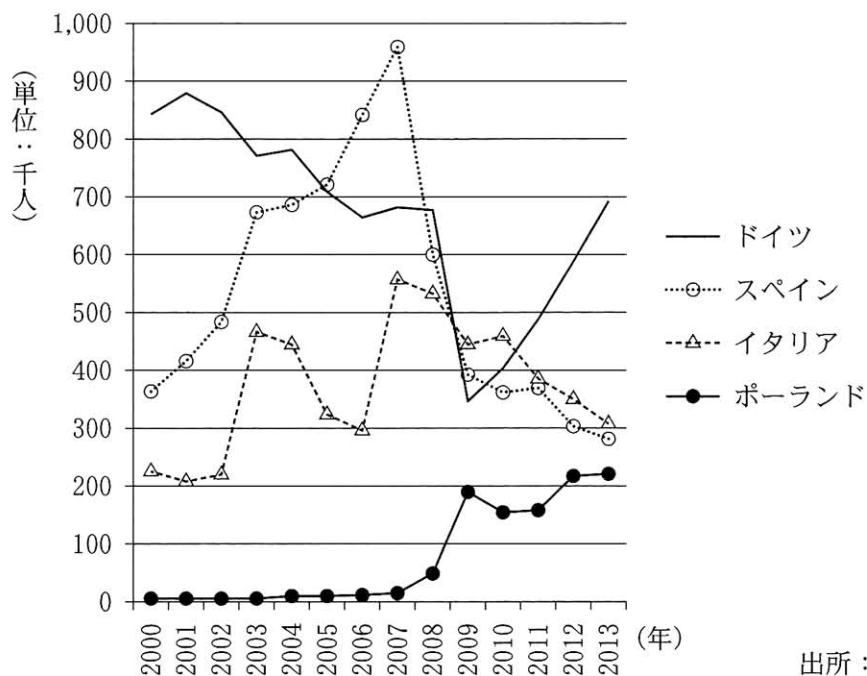
問 4 下線部(4)に関連し、EUの4か国について、図Ⅱ－1は流入人口(年間)の推移を、図Ⅱ－2は流出人口(年間)の推移を、それぞれ示したものである。2つの図を読み解いた上で、2004年以降における人の移動をめぐる主な変化の特徴とその理由を、ヨーロッパおよび世界の情勢の変化と結びつけて、説明しなさい。(150字以内)

表Ⅱ－1：2004年以降のEU加盟国(キプロス、マルタを除く)の順位
——人口および他の経済社会指標について

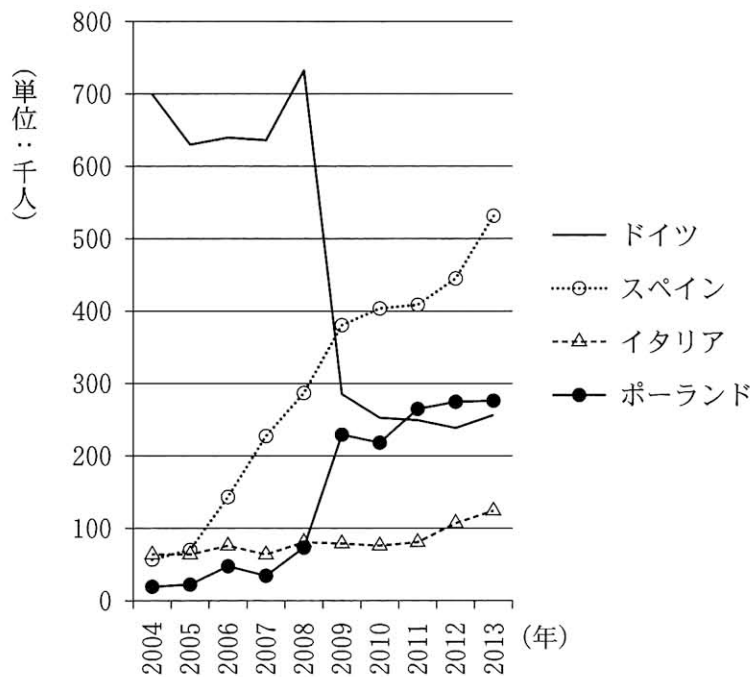
	2014年 人口 (千人)	国名	[A]	国名	[B]	国名	[C]	国名
1位	38,017	ポーランド	47.4	【ス】	26.5	【シ】	19.6	【ス】
2位	19,947	【サ】	38.5	【サ】	23.2	スロバキア	19.1	ラトビア
3位	10,512	【シ】	32.8	ラトビア	22.5	スロベニア	18.4	【セ】
4位	9,877	ハンガリー	31.5	ハンガリー	20.9	ハンガリー	18.4	クロアチア
5位	7,245	【ス】	29.9	クロアチア	19.8	【ス】	18.4	リトアニア
6位	5,415	スロバキア	29.8	リトアニア	19.1	ポーランド	17.5	ハンガリー
7位	4,246	クロアチア	24.8	ポーランド	18.7	【セ】	17.5	スロベニア
8位	2,943	リトアニア	21.7	【セ】	18.2	【サ】	17.4	【シ】
9位	2,061	スロベニア	20.1	スロベニア	16.8	クロアチア	16.5	【サ】
10位	2,001	ラトビア	18.5	スロバキア	15.5	リトアニア	14.9	ポーランド
11位	1,315	【セ】	14.1	【シ】	14.1	ラトビア	13.5	スロバキア
	18,100	EU平均	22.9	EU全体	15.5	EU全体	18.5	EU全体

出所：EUROSTAT

図Ⅱ-1 流入人口(年間)



図Ⅱ-2 流出人口(年間)

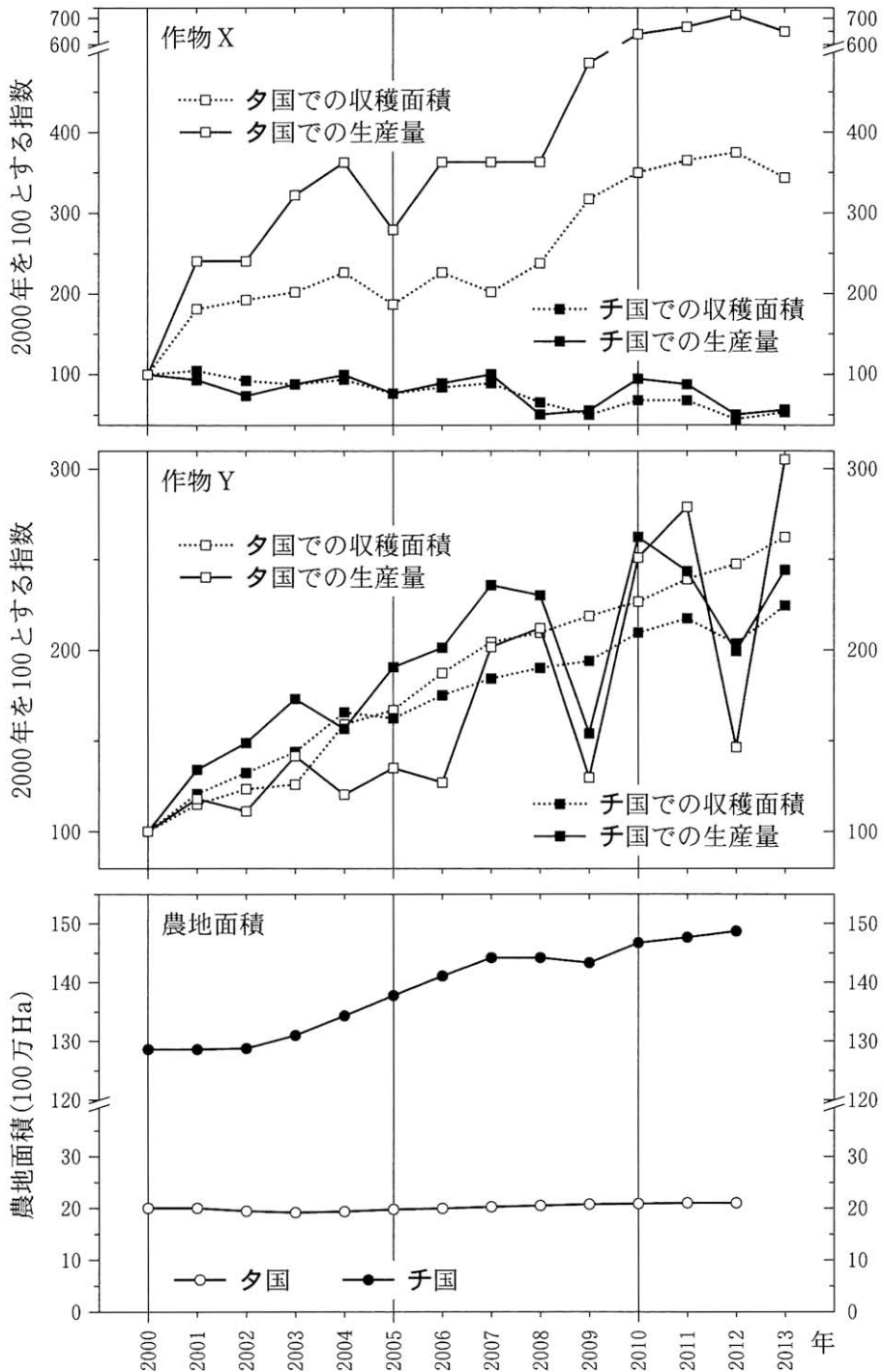


Ⅲ 農業に関する以下の文章 1, 2 を読んで、問いに答えなさい。

1 一般に、水を遠隔の不足する地域に運ぶことは難しい。しかし、水を利用して生産された農畜産物の輸出入によって、水を「輸送」することは可能である。たとえば乾燥地域では、希少な水を用いてすべての食料を生産する代わりに、水の豊富な地域で生産された食料を輸入することで、その生産に必要な水を「輸入」し、域内の水を節約できる。このように、貿易によってやり取りされたとみなしうる水のことを、「仮想水」と呼ぶ。日本は、湿潤であるにもかかわらず、農畜産物の輸入をとおして大量の仮想水を受け取っており、海外生産地の水収支に影響を与えている。日本の気候がそれらの産物の生育に適さない場合は、ほかに選択肢はない。だが、それを除いても、日本が輸入してきた仮想水の多くを国内降水で置き換え、輸入してきた農畜産物を国内で生産することには、地形的制約がともなう。さらに、今日の日本では、多数の農家世帯が増産の難しい営農実態にあることも、考慮しなければならない。

2 夕国と子国は、ともにメルコスールと呼ばれる共同市場に加盟している。図Ⅲ—1は、両国における作物 X と Y の生産動向と、農地面積の推移を示したものである。夕国の南東部と子国の北東部は比較的湿潤な農業地域だが、全国の動向を示すこの図に多少とも表れているように、これらの地域は 2004～2006 年、2008～2009 年、2012 年に干ばつの影響を受けた。両国は作物 X と Y を輸出しているが、これら 2 つのうち油脂の原料にも使われる作物の輸出重量でみると、両国はそれぞれ世界第 3 位、第 5 位(2012 年)を占める。こうした輸出用作物の生産は、国内にさまざまな動きや問題を生んでいる。たとえば、夕国では、国会が国の財源をえるためにこれらの作物の輸出に課税しようとして、経済成長を重視する大統領と対立した。また、子国の政府は図Ⅲ—1 の示す生産動向を問題視し、国内消費される主食穀物の生産を維持しようとしてきた。これらの動きに並行して、夕国と子国では輸出用作物を栽培する土地をめぐって対立が起きており、その土地および周辺では、生物多様性の減少、農業被害、洪水の深刻化も懸念されている。

図III—1：夕国，子国における作物X，Yの生産動向と農地面積の推移



出所：FAOSTAT

問 1 下線部(1)に関し、日本が仮想水の輸入を減らす際に、国内のどのような地形的条件と農家世帯の営農実態に制約されることになるか、説明しなさい。
(150 字以内)

問 2 下線部(2)に関し、解答用紙の 7 行目に、夕国の国名を記しなさい。また、そのあとに 1 文字空け、続けて作物 X と Y の名前を答えなさい。解答は、X = 作物名、Y = 作物名のように書きなさい。

問 3 下線部(2)に関し、土地利用と耕作方法について図Ⅲ－1 から推定されることに触れながら、また必要に応じてその他の事項を補いながら、夕国とチ国における作物 X と Y の生産が図Ⅲ－1 のような動向を示す理由を説明しなさい。なお、解答のなかで干ばつの影響には触れないこと。また、国名と作物名は、夕、チ、X、Y のように、それぞれ 1 文字で略記すること。
(125 字以内)

問 4 下線部(3)に関し、どのような人々が、主にどのような植生状態にあった土地を農地とし、どのような人々に対して、どのように振る舞ったために対立が起きたのか、答えなさい。なお、地名・人名などの固有名を具体的に記す必要はない。(100 字以内)